

# 強いながら鈍化も見られる米雇用市場

## ポイント① 就業者数は増加も、失業率が上昇

11月4日に発表された10月の米雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比で26.1万人の増加となり、事前の市場予想を上回る結果となりました。一方、失業率は3.7%と、9月から0.2%上昇したほか、平均時給についても前年同月比で4.7%の上昇と、9月の5.0%から伸びが鈍化し、雇用情勢にやや緩和の兆しが見られる格好ともなりました。

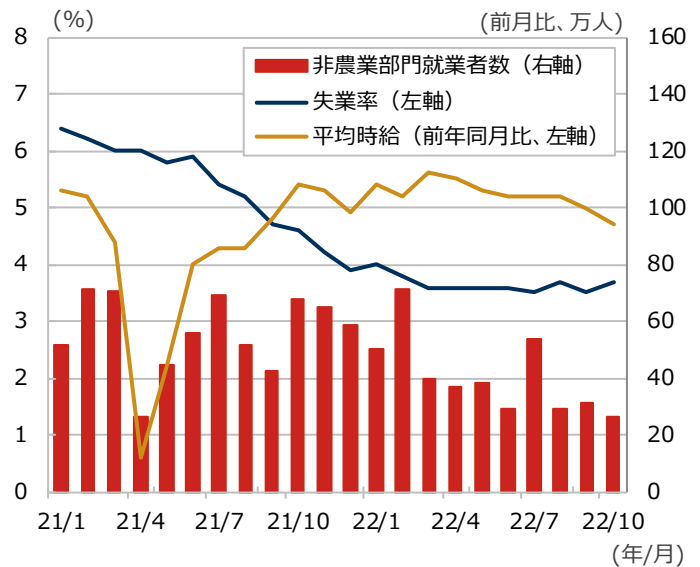
## ポイント② ただ雇用は総じて“強い”印象

しかしながら、FRB（米連邦準備制度理事会）が金融引き締めをペースダウンさせるほどではないようです。例えば失業率は、9月時点でのFRBの長期予測の4.0%を下回る水準での推移を続けており、平均賃金もFRBの目標である2.0%のインフレ率を大きく上回っています。足元では労働参加率が前月比で低下していることが、ひっ迫している労働需給の緩和を遅らせているようであり、FRBが金融引き締めの手綱を緩めるには十分な減速ではないと見ています。

## ポイント③ 市場の反応は複雑

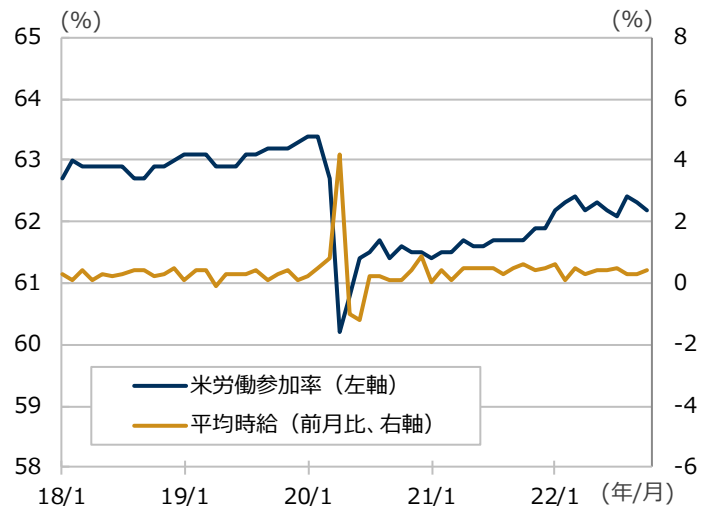
雇用統計の発表を受けて、市場では労働需給が緩みつつある一方、FRBの金融引き締めのペースを緩和させるほどの確証とはならず、「金融引き締めが長期化する」との観測から米10年国債利回りは前日比で上昇、大きなサプライズがなかったことで、株式市場は大幅反発しました。利上げ幅や時期を巡っては、本統計のみでの判断は難しく、FRB高官の発言や10日発表の消費者物価指数などにも注目が集まります。

## 米失業率・平均時給・非農業部門就業者数の推移



期間：2021年1月～2022年10月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## 米労働参加率・平均時給 (前月比) の推移



労働参加率は米雇用統計で発表される指標の一つ  
期間：2018年1月～2022年10月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント	日付	内容
	11月10日	米消費者物価指数 (10月)
	11月16日	米小売売上高、米鉱工業生産指数 (10月)